

## 適格性基準条件3(採算性評価)の補足資料:峠の湯びほろ

### 1. 化石燃料と木質バイオマス燃料の費用比較

#### <A重油>

①	年間使用量	257,333	L/年	(H18~H20の3カ年平均)
②	単価(H22.1)	58.8	円/L	燃料単価表(A重油56円×消費税5%)
③	費用(①×②)	15,131,180	円/年	

#### <木質チップ>

①	年間使用量	1,568	m <sup>3</sup> /年	(内300m <sup>3</sup> は町有林分、その他が民有林分)
②-1	単価(民有林 H21.12)	4,500	円/m <sup>3</sup>	民有林分
②-2	単価(町有林)	未定	円/m <sup>3</sup>	町有林分(輸送費等未定)
③	費用(①×②)	5,706,000	円/年	1268m <sup>3</sup> ×(②-1)+300m <sup>3</sup> ×(②-2) ※②-2は単価未定のため計算には反映していない
④	保守点検費用	400,000	円/年	
	維持管理保安者	2,088,000	円/年	
⑤	総費用(③+④)	8,194,000	円/年	

#### <費用比較>

⑥=③-⑤	6,937,180	円/年
-------	-----------	-----

以上により、A重油を木質チップに代替することにより、年間6,396千円の収支改善が図られる。  
(なお、町有林分のチップ単価は価格未定のため計算に反映していないため、実際の収支改善は減少する)

### 2. 投資回収年数

#### <投資回収年数計算に係る解説>

資料1-1事業全体フロー図に示したとおり、町有林の林地残材を伐採・回収・踏み込みし、チップ化施設まで運搬するために必要な重機等の経費は町が全て負担している。本来当該経費は、チップ製造会社(北海設計)の製造コストとなり、チップ単価に含まれるものであるが、町がチップ原料の持ち込み費用を負担することで、チップ単価は通常よりも安価な設定となっている。従って、事業者である町の投資費用として、重機等の導入経費をボイラー導入費用と共に、町の投資費用として計上する。

①	投資額(チップボイラー)	85,000,000	円	購入費
	投資額(グラブ付トラック)	8,698,439	円	購入費(13,849,500)
	投資額(ブルドーザ)	5,291,605	円	リース料(8,425,200)
	投資額(作業車)	2,266,474	円	リース料(3,608,640)
	燃料費	504,465	円	車両用
	作業員賃金(5人)	9,165,700	円	8~10ヵ月雇用
	小計	110,926,683	円	
②	補助金	78,400,000	円	
③	町負担額(①-②)	32,526,683	円	

※①のボイラー以外の費用については、B&Gと峠の湯両方の経費となるため、熱量按分(峠の湯分として約6割で想定)で費用を計上した。

④	年間収支(1の⑥)	6,937,180	円/年
---	-----------	-----------	-----

⑤	投資回収年数(③÷④)	4.7	年
---	-------------	-----	---

以上により、投資回収年数は4.7年となる。